

今日の説教のポイント<創世記 10 章 1～32 節>

ノアの子孫の系図。この系図を記した文章の特徴は？

①全人類は同一の祖先から出た！

創世記 10 章は、ただひたすら、ノアの子、セム、ハム、ヤフェトの子孫を記しています。最後には、「**地上の諸民族は洪水の後、彼らから分かれ出た**」(32 節)とあります。これは、「**全人類は同一の祖先ノアから出た**」ということであり、それは詰まる所、「**皆、神様から出た兄弟姉妹なのだ**」ということです。今、日本・中国・韓国は島の領有権についてもめています。原発事故で明らかなように、世界はもう一緒に協力して生きていかなければならない時代であるのに、いつまで「自分たちのものだ」といった言い争いを続けるのだろうかと思わずにはおれません。神の家族として皆が平和に生きていけるように祈りましょう！

②ニムロドに注目！

今日の箇所、唯一、決まった言い方からはみ出して、詳しく述べているのは、ニムロドという人物についてです。「**地上で最初の勇士となった**」(8)「**主の御前に勇敢な狩人**」(9)と表現されていることから、戦いを好む人物であることが分かります。また、「**彼の王国の主な町は**」(10)では聖書で初めて「王国」が使われ、大きな規模の権力を握る人物が初めて登場したことに驚きを示しています。その彼の作った町の一つにバベルがあり(10)、あのバベルの塔の出来事に繋がっていくのです。すなわち、ニムロドの力強さは神様と張り合う力強さであり、滅びに至る力強さであったのです。力強ければいいということではないことを教えられます。そうではなくて、パウロが「**誇る者は主を誇れ**」(Ⅰコリント 1:31、Ⅱコリント 10:17)と何度も語っているように、私たち自身は弱くても、神様の強さを知り、その神様と共に生きて行けばいいのです！

③イスラエルの影が全く見えないことの中にある神様の恵み！

神様の選びの民イスラエルの祖アブラハムはセムの子孫ですが(11 章 10 節以下から 12 章へ)、10 章では全くその気配がないのも特徴です。

「初めからセムは良い人間、ハムは悪い人間」、と決めつけて読もうとするのは間違っています。どの人間も皆、神様の子なのです。その皆の救いのために、神様は歴史の中でアブラハムを選ばれただけなのです。